

那須高原小学校だより

令和5年4月③号

文責 遠藤克朗

「チャレンジ。前へ！」～すべての那須高原っ子へ～



高原小学校での子供たちへの接し方の基本

できたことは大いに褒める・威圧的でなく諭す・怒るではなく叱る

これは大人でも同じですよ。褒められたら嬉しいものです。どんな小さなことでも褒められたら、見ていてくれたんだって思います。

「怒る」は教育的ではありませんし、感情的です。「叱る」は相手を思いやる気持ちがあります。「こうなってほしい」という思いが込められています。

威圧的。なんとなく嫌な気持ちは残りませんか。子供は一瞬従うと思います。だから、威圧的な方が指導的に簡単なんです。「恐れ」による教育は、大きなマイナスです。「なぜだめなのか」をしっかり説明して、諭していく。時間はかかりますが効果はとても大きいのです。



それは学校の先生だからでしょ。
親の目線はまた違いますよ。



家ではガンガンなってますよ。やらないんですもん。

家では褒めたことなんてないですよ。ぜんぜんできないのに。

もう、頭にくるわ。子供の行動見ていると。

だってね、ゲームばかりですよ。怒りますよ、そりゃあ〜。

自分のこともろくにできないうちの子。いらいらする〜。

うちの子？褒めるところなんて何もないですよ。

皆さんは、まじめで、とても責任感があるのです。お子さんの行動は自分の責任だと思い、どこかで自分を責めているところはありませんか。一生懸命子育てをしているからこそ、腹も立つし、イライラもすると思います。もちろん、先生方もまじめで、責任感があるのは同じです。ちょっと見方を変えてみましょう。

学校でも家でも、けっこう子供たちはがんばっています。

同じ目線で
いきましょう

保護者も先生もがんばっている。

那須高原小学校の先生や保護者の皆さんの子供たちへの接し方の基本
できたことは大いに褒める・威圧的でなく諭す・怒るではなく叱る